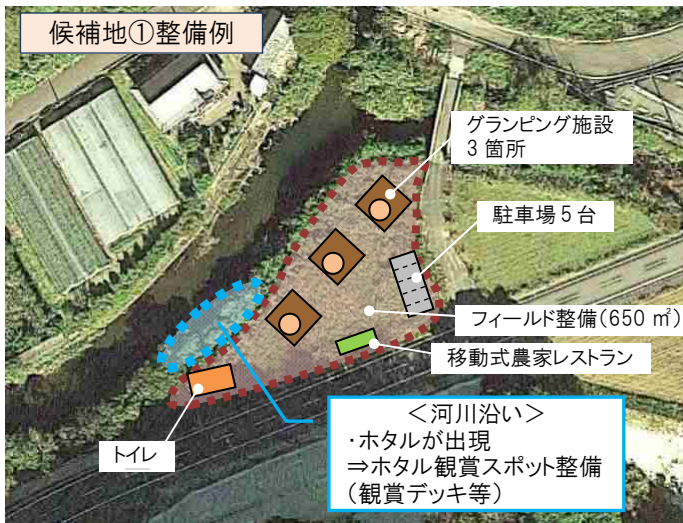


星空とホタルの観察スポット整備事業

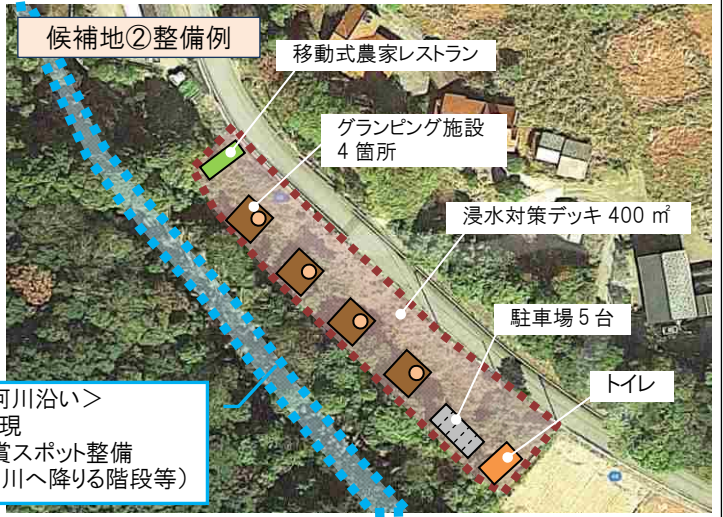
事業対象地	峰町三根の耕作放棄地
対象エリア	活力と安らぎの滞在エリア
対象ゾーン	星空とホタルの満喫スポット
整備カテゴリ	ハード整備 小規模施設(新設)
事業概要	<p>国道 382 号と県道 48 号が交差する地点は山に囲まれており、漁火の光に阻害されることなく星空観察に適している土地であるため、この付近の耕作放棄地を活用して星空観察スポットとして整備を行います。</p> <p>また、ホタルの飛び交う川も近接しているため、ホタルの観賞スポットの整備も行います。</p>
整備優先度	短期・中期・長期
関連する個別事業	海辺と森のリゾートフィールド整備事業 スポーツ関連施設整備事業、Wi-Fi 環境整備事業 新しい中対馬情報発信事業、民泊施設・移住支援住宅等整備事業
事業主体	対馬市
連携事業者	地元農家、交通事業者、飲食事業者
備考	



整備計画図



整備の考え方:
 星空を観察しながらラグジュアリーなキャンプを楽しむ施設として、グランピング施設を整備し、来客がある際にのみ稼動する移動式農家レストランを配置します。
 また、両候補地とも川に接していることから、ホタルの観賞ができるよう、観賞デッキや川へ降りる階段等を整備することで、親水性を高めます。



整備イメージ



グランピング施設



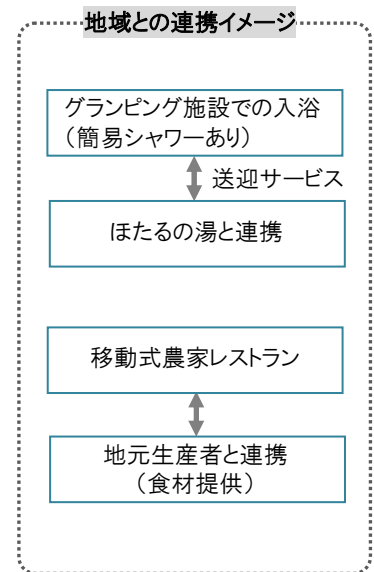
親水階段



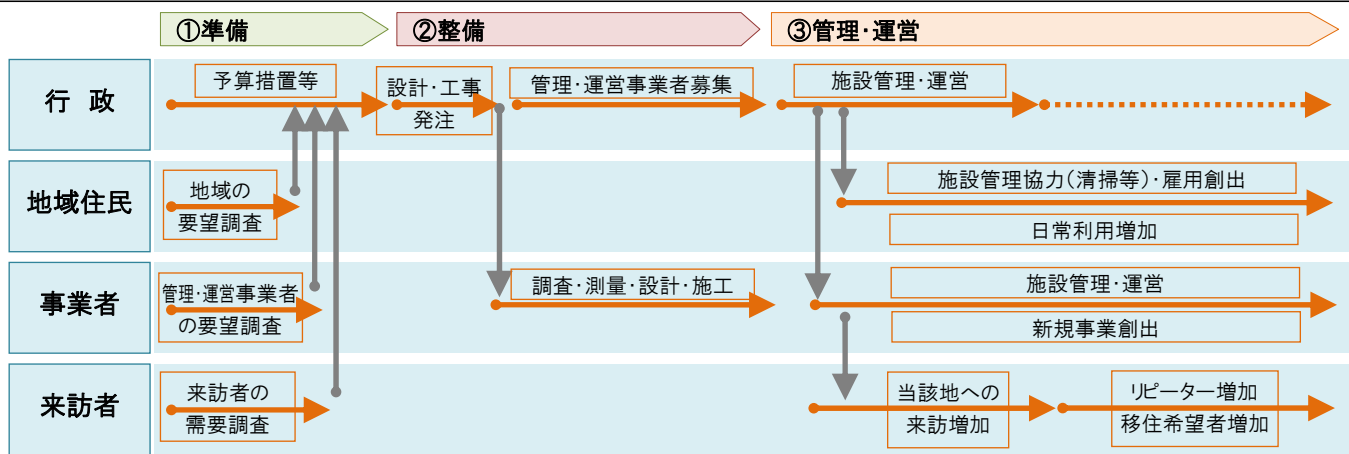
移動式農家レストラン



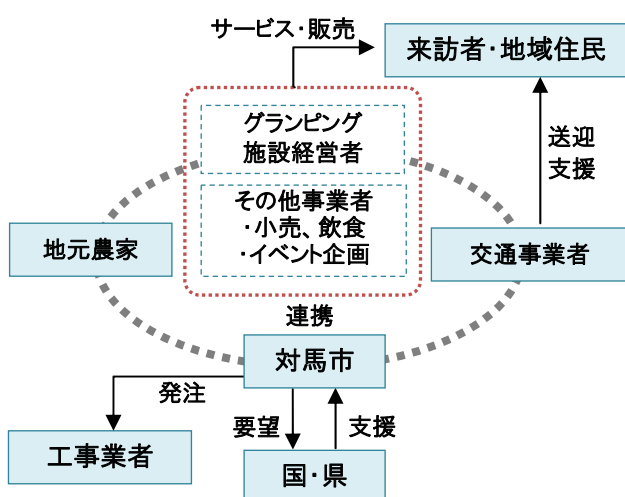
ホタル観賞デッキ



事業計画イメージ



事業間の連携イメージ



概算事業費

グランピング施設	7 箇所	1,500 万
フィールド整備(基面整正)	650 m ²	50 万
駐車場	10 台	150 万
屋外トイレ(50 m ²)	2 箇所	5,000 万
浸水対策デッキ(合成木材)*	400 m ²	約 1 億
ホタル観賞デッキ	1 箇所	800 万
親水階段	1 箇所	300 万
移動式農家レストラン	2 台	1,000 万

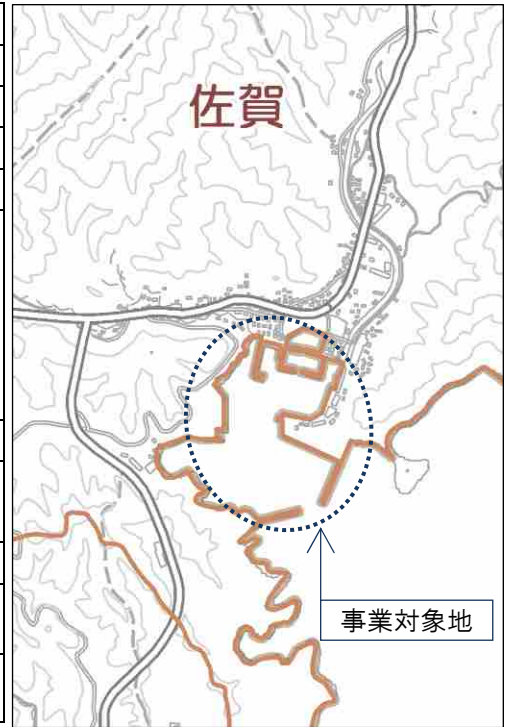
*浸水対策を盛土(1m)によって行う場合は 400 万

活用可能な補助事業

・輝く地域再生事業

佐賀漁港活用・商業交流拠点強化事業

事業対象地	佐賀漁港	
対象エリア	漁業と食の生業発信エリア	
対象ゾーン	漁業のテーマパークゾーン	
整備カテゴリ	ハード整備	道路・港湾整備(新設)、建築施設(新設)
	ソフト整備	創業支援
事業概要	県内でも高い水揚げを誇る佐賀漁港では、地元有志による朝市や峰東女性部キッチンによる水産加工・販売など、漁業を中心とした取組みが行われています。これら取組みを一層促進しつつ、誘客による浜の活性化を目指すため、漁業と食の生業を積極的に発信する整備を行います。	
整備優先度	短期・中期・長期	
関連する個別事業	民泊施設・移住支援住宅等整備事業 新しい中対馬情報発信事業、Wi-Fi環境整備事業	
事業主体	対馬市	
連携事業者	地元飲食・宿泊事業者、漁協(全体)、遊漁船事業者 ハートランド出店者	
備考	漁港の利用・整備にあたっては、峰町東部漁協及び県と調整(漁港施設用地の利用計画変更)が必要	



整備計画図

< 来訪者の受入整備 >

- ・既存民泊の誘客力強化
- ・空き家・空き部屋を活用した民泊整備
- ・佐賀名物の共同開発
- ・朝市の活発化

< 港湾の一体利用 >

- ・湾岸道路(L≒270m)
- ⇒干し場・船台、ハートランドへの利便性向上

遊歩道
旧山道を利活用

佐賀朝市
(田中水道前広場)

漁船専用区域

峰東女性部
キッチン加工場
峰町東部漁協

< 港湾用地の利活用 >

- ・水産交流施設、港食堂
- ⇒峰町東部漁協と連携した水産物販売・飲食・交流施設の整備
- ※峰東女性部キッチンの活動をPR

整備の考え方:

港湾周辺をより積極的に活用するため、漁協に隣接して整備する水産交流施設を中心に、遊漁船等の海洋性レクリエーションの促進を図る棧橋等の整備を行います。

また、佐賀の水産物をPRし、来訪者の立ち寄り・滞在を強化するための仕掛け(飲食・宿泊強化支援)を行います。

< ハートランドの改修 >

- ・将来的な誘客に向けた外観改修(民間主導)
- ・近隣にトイレ新設

< 海洋性レクリエーションの活性化 >

- ・浮き棧橋
- ⇒遊漁船、プレジャーボート等の停泊

整備イメージ



朝市の活発化



港食堂(一目に分かる外観、落ち着いた店内)



プレジャーボート等の停泊



産地と生産者の顔が見えるPR

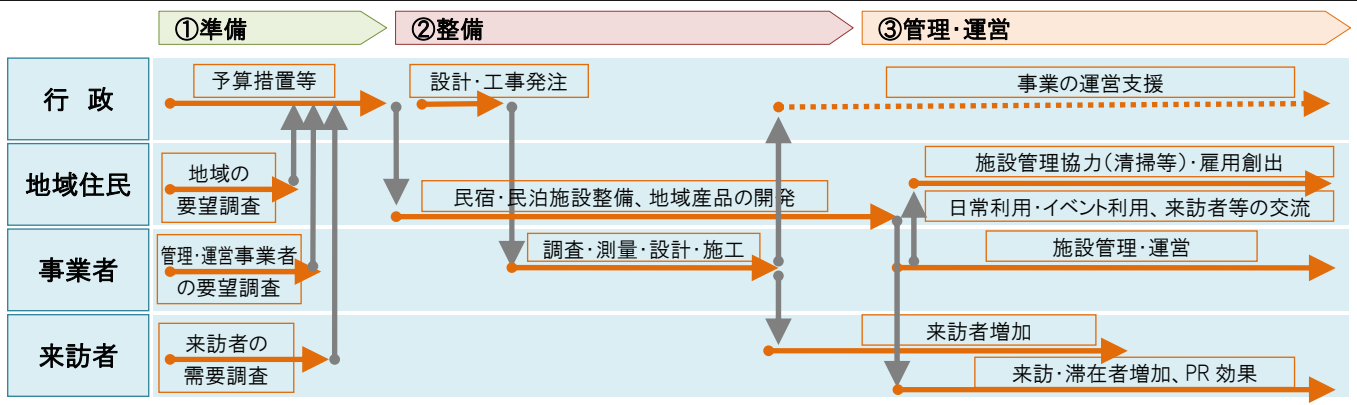


ハートランドの改修

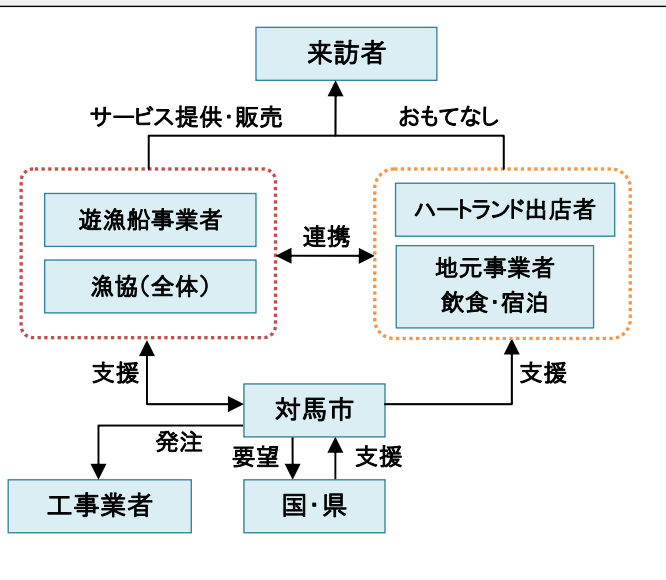
- 外観の改修
- ・沿道へのアピール
 - ・施設イメージの統一 等

- 建物内の改修
- ・店舗のデザインイメージ
 - ・照明、レイアウト等
 - ・観光客向け店舗の誘致
 - ・交流スペースの確保 等

事業計画イメージ



事業間の連携イメージ



概算事業費

水産交流施設	1,000 ㎡	2.5 億
港食堂	200 ㎡	2,000 万
浮き桟橋 (プレジャーボート等停泊)	一式	5,000 万
湾岸道路の整備(W=4.0m)	270m	1.2 億
遊歩道の整備(W=1.5m)	1.2km	500 万

※湾岸道路は、海底の地形状況等により大きく変わる可能性がある

活用可能な補助事業

- ・農山漁村活性化プロジェクト支援交付金
- ・市町村港湾整備事業
- ・みなと振興交付金

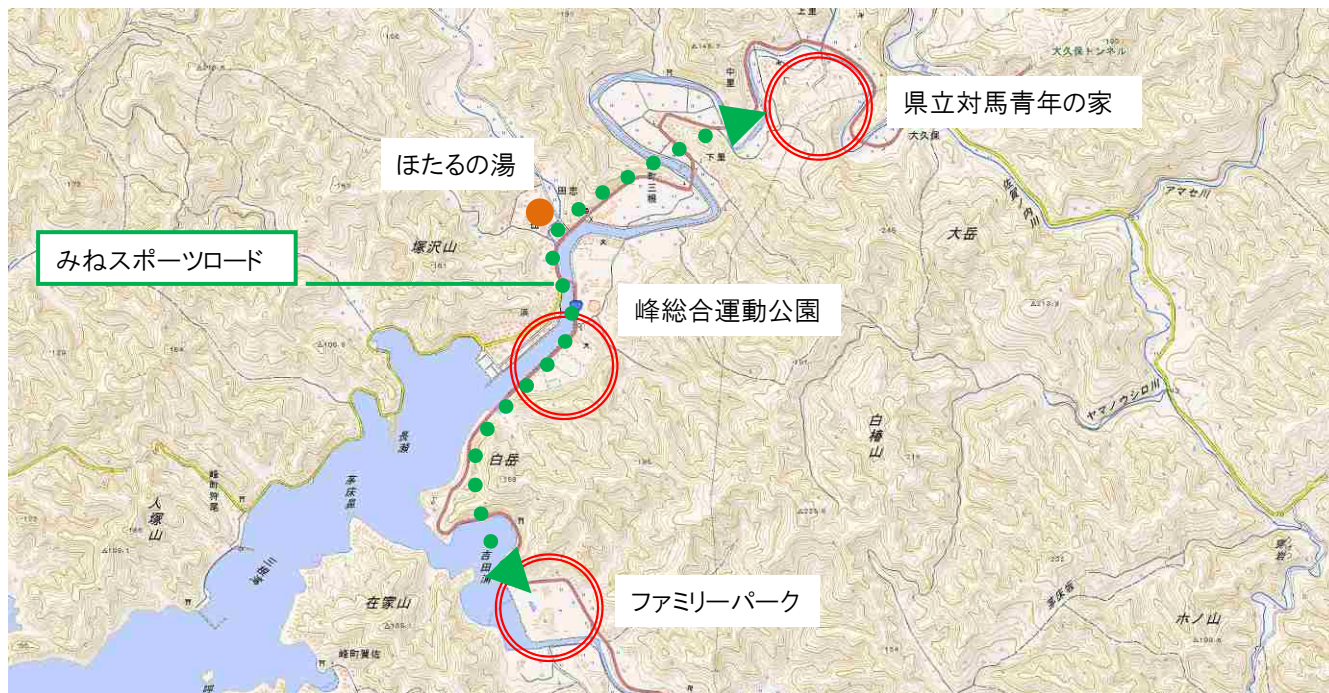
スポーツ関連施設整備事業（1/2）

事業対象地	峰町三根・吉田	
対象エリア	活力と安らぎの滞在エリア	
対象ゾーン	スポーツによる活力増進ゾーン	
整備カテゴリ	ハード整備	建築施設(改修)、広場・屋外等
	ソフト整備	交通ネットワーク、創業支援、イベント企画
事業概要	<p>峰町にはファミリーパークや総合運動公園等、体を動かすための施設があることから、スポーツ関連施設の充実化を図るとともに、スポーツ合宿やスポーツイベント等で来訪する人々に対応するための宿泊施設等の整備を行い、スポーツツーリズムの促進につなげます。</p> <p>また、当該エリアの中心部である峰町歴史民俗資料館を中心に、ファミリーパークや県立対馬青年の家等を結ぶ送迎サービスの整備を行います。</p>	
整備優先度	短期 ・ 中期 ・ 長期	
関連する個別事業	峰・木坂中核拠点事業、星空観察スポット整備事業、新しい中対馬情報発信事業、民泊施設・移住支援住宅等整備事業、Wi-Fi 環境整備事業	
事業主体	対馬市、交通事業者	
連携事業者	教育委員会、スポーツ・アウトドア関連事業者	
備考		



整備計画図

峰町三根を中心としたスポーツ関連整備の全体計画

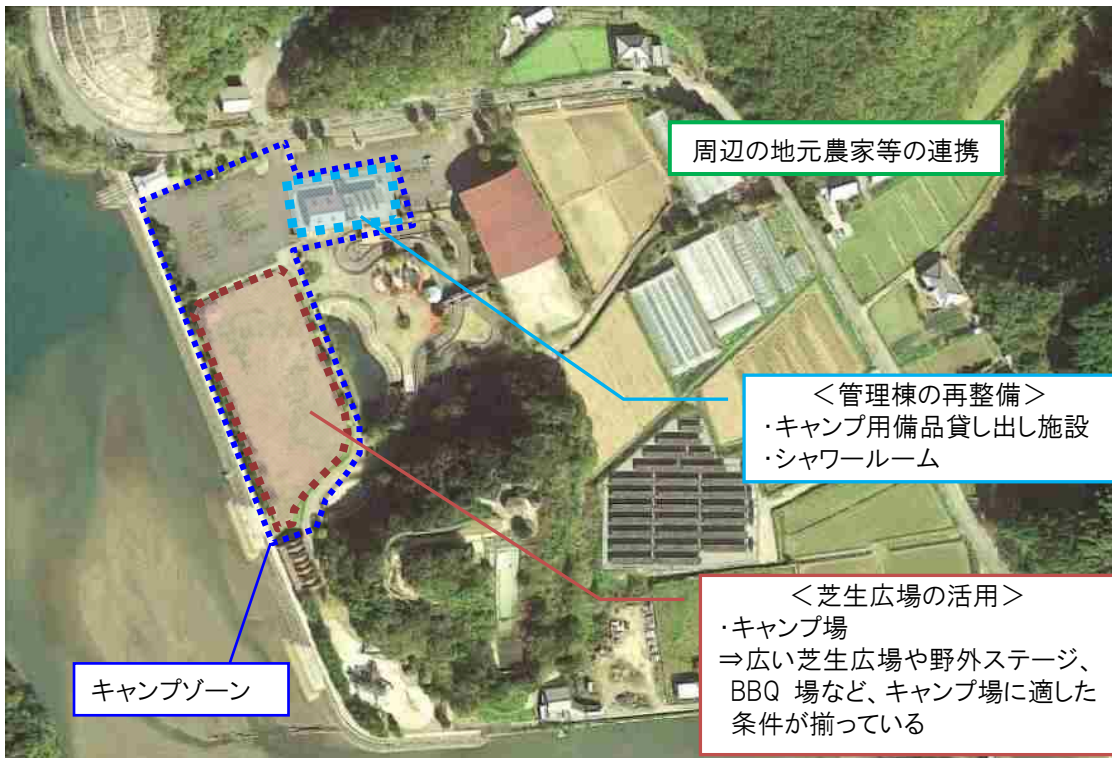


整備の考え方:

3箇所のスポーツ・アウトドア拠点の再整備と合わせて国道 382 号の該当区間を「みねスポーツロード」(約 5km)と位置づけることで、各施設間の連携を図り、スポーツ振興やスポーツツーリズム、地域の健康増進等に向けた一体的な整備を行います。また、将来的な中対馬のスポーツ・健康モデル地区として峰町三根の活性化を図ります。

整備計画図

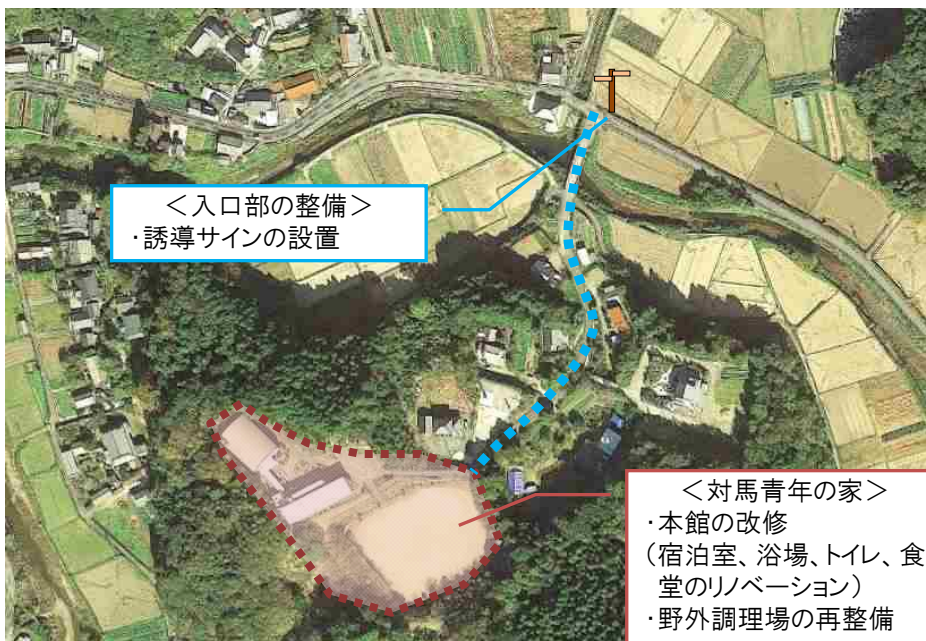
①ファミリーパークの再整備



整備の考え方：

ファミリーパークの芝生広場をキャンプ場として開放し、キャンプ用品の貸し出しや周辺宿泊情報などのサービス提供ができるよう、管理棟の再整備を行います。

②県立対馬青年の家の再整備



野外調理場の再整備

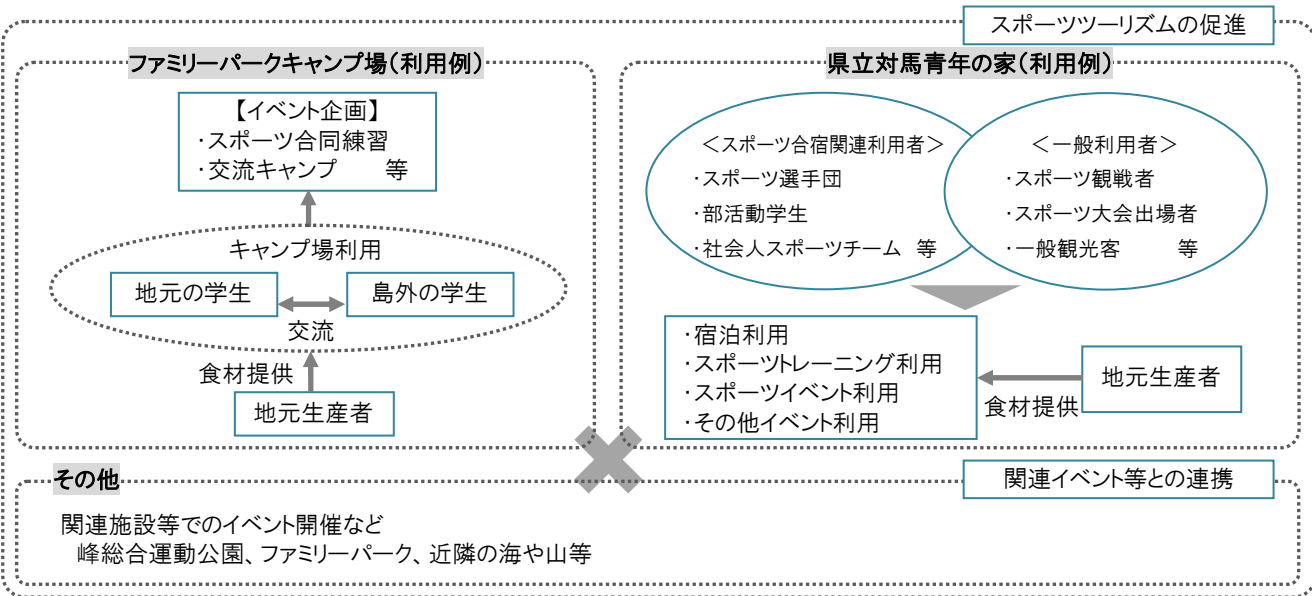
整備の考え方：

スポーツ合宿利用者のためのスポーツトレーニング施設の充実を図るほか、一般利用者が宿泊したり、イベント活用できる施設とするために、本館や野外調理場の再整備を行います。(県との連携・支援にて実施)

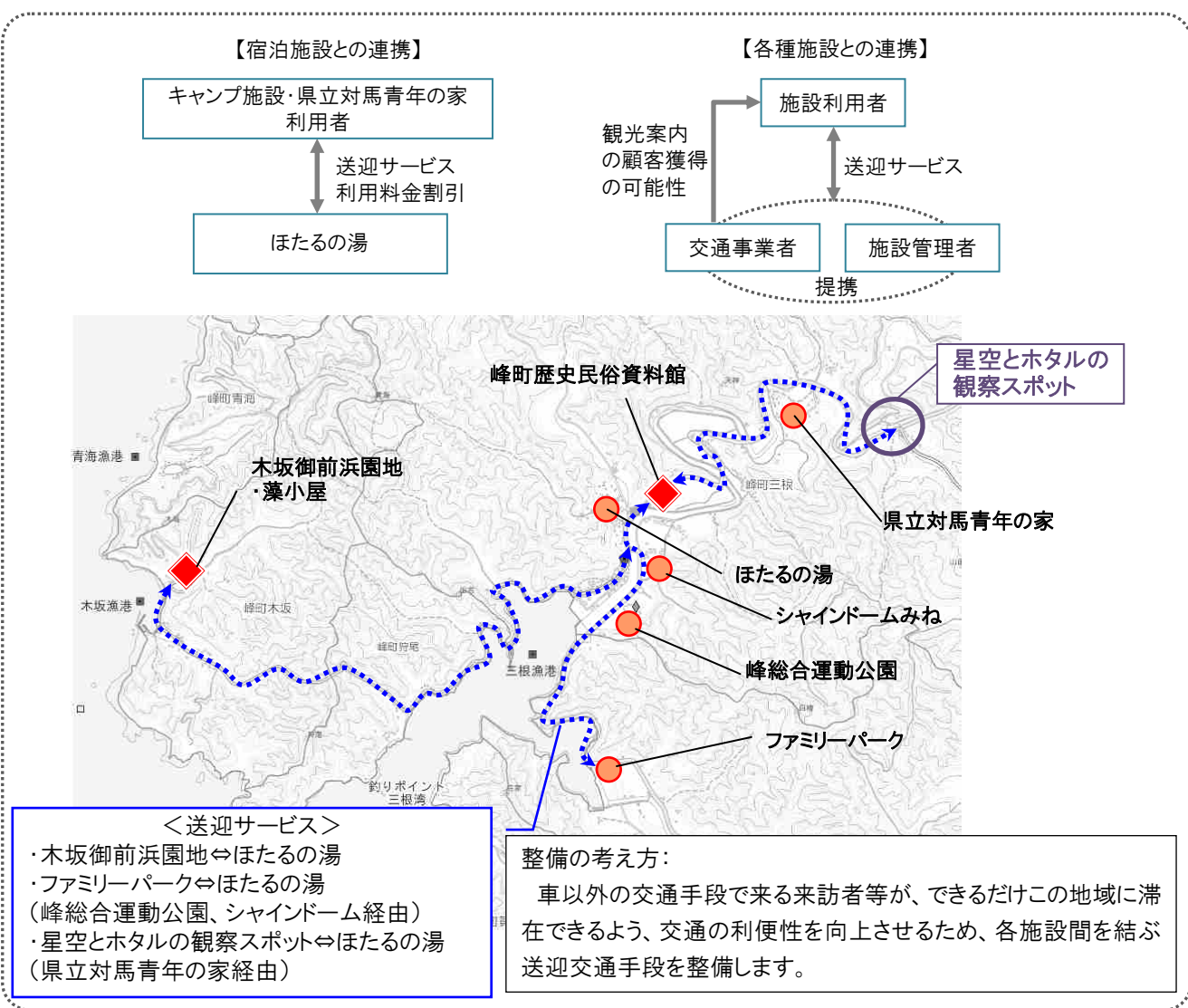
スポーツ関連施設整備事業 (2/2)

整備イメージ

【スポーツツーリズム促進イメージ】



【地元事業者との連携イメージ】



整備イメージ



スポーツ選手と地元の交流



スポーツ交流イベント



タクシー等による拠点間送迎



みねスポーツロードのランニング

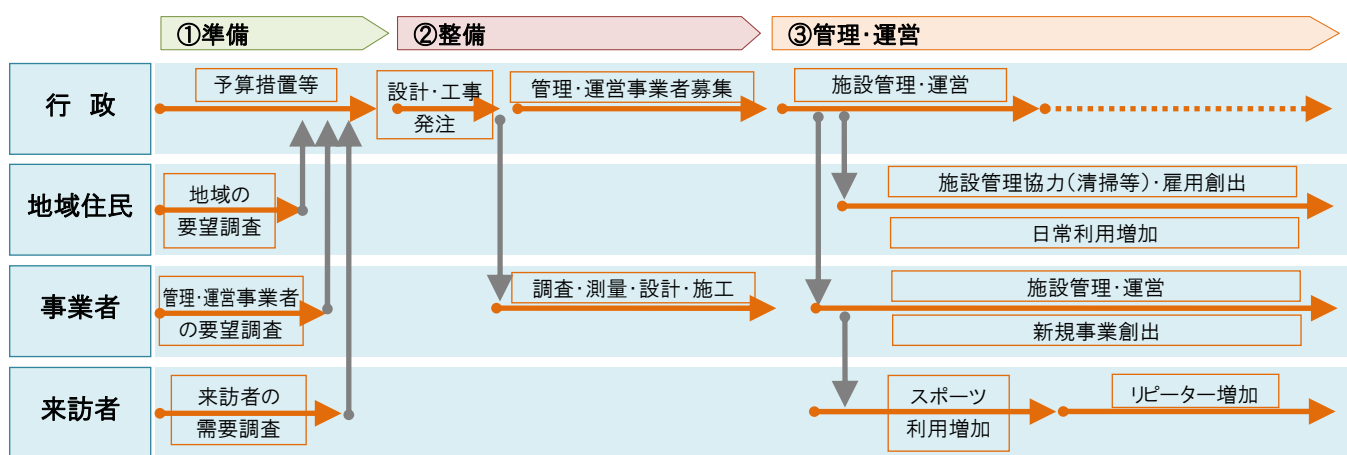


キャンプ場

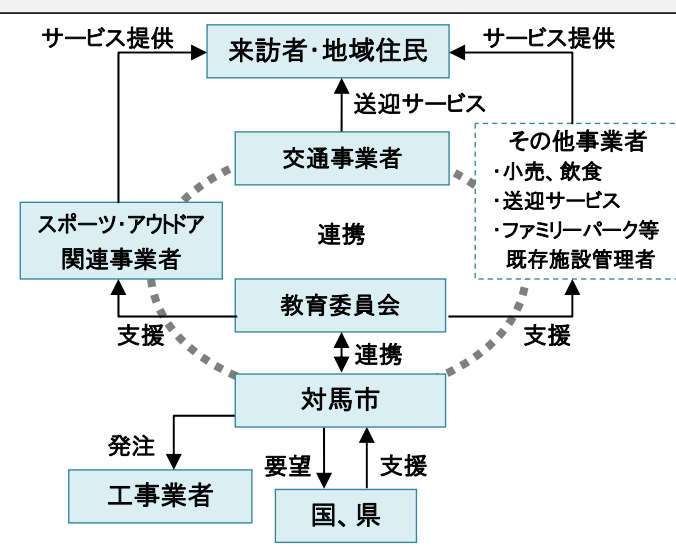


キャンプ道具レンタル

事業計画イメージ



事業間の連携イメージ



概算事業費

管理棟(再整備) シャワールーム キャンプ道具レンタル 等	1 式	1,000 万
-------------------------------------	-----	---------

※キャンプ道具レンタル数量の詳細は、整備時の需要調査等を踏まえて検討

活用可能な補助事業

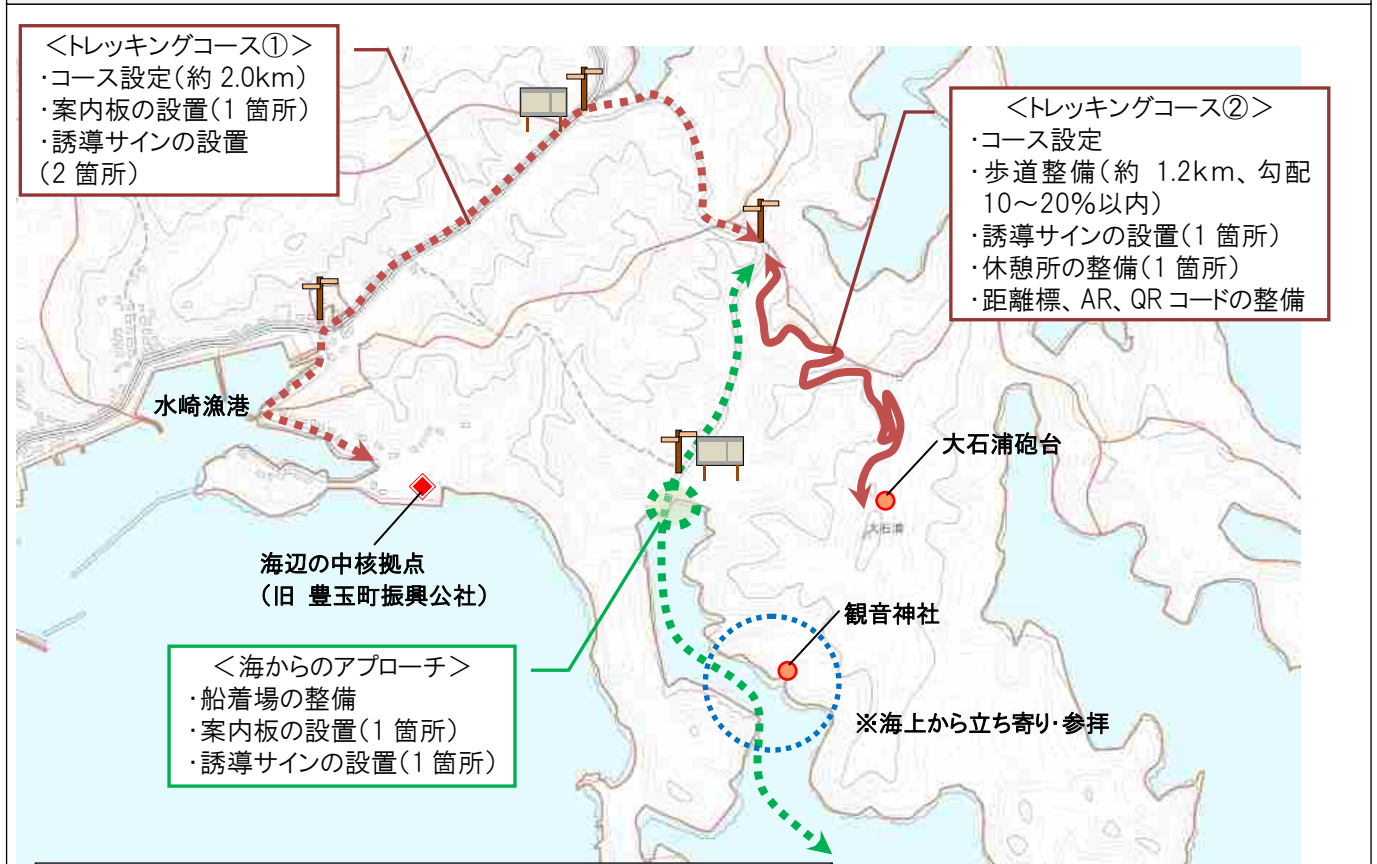
- ・元気な観光地応援事業
- ・輝く地域再生事業

大石浦砲台ルート整備事業

事業対象地	東加藤	
対象エリア	岬のお散歩エリア	
対象ゾーン	食のおもてなしとリフレッシュゾーン	
整備カテゴリ	ハード整備	道路整備(新設)、小規模施設(新設)
	ソフト整備	AR、QRコード
事業概要	<p>大石浦砲台は明治 21 年竣工の、対馬で最も古い砲台の一つであり、東加藤の山中にあります。砲台までの歩道が整備されていないため、来訪者等がほとんどない状況です。大石浦砲台の保存状態はよいため、トレッキングをしながらの観光できるスポットとして道路や案内板等を整備します。</p> <p>また、子宝神社とも言われる観音神社への海上参拝ルートを整備します。</p>	
整備優先度	短期・中期・長期	
関連する個別事業	岬のアクティビティフィールド整備事業、浅茅湾周遊プログラム整備事業、新しい中対馬情報発信事業、Wi-Fi 環境整備事業	
事業主体	対馬市	
連携事業者	観光物産協会、遊漁船事業者	
備考		



整備計画図



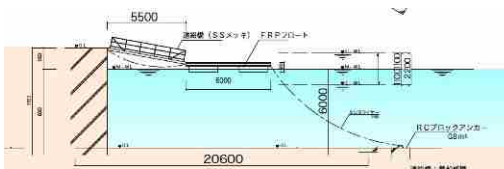
整備の考え方：
 海辺の中核拠点(旧 豊玉町振興公社)を発着点として、大石浦砲台までのトレッキングコースを設定し、市道から大石浦砲台まで歩道がない箇所については、歩道整備を行います。また、海からのアプローチもできるよう、遊漁船が就航できる船着場の整備も行います。

※AR: 現実の風景に情報を重ね合わせて表示する技術
 QRコード: 高速読み取りを重視したマトリクス型 2 次元コード

整備イメージ



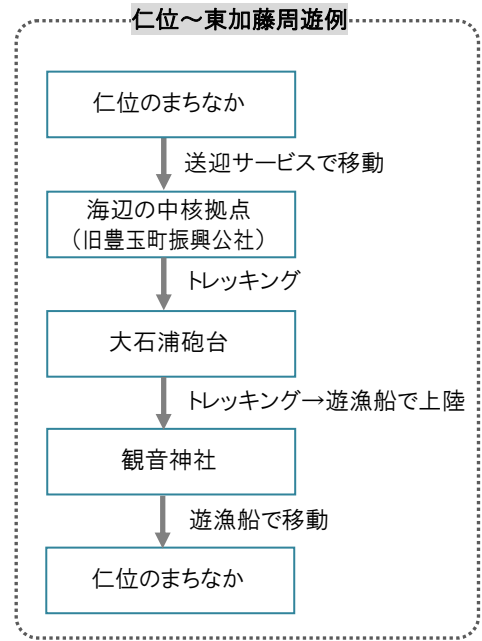
トレッキングコースイメージ



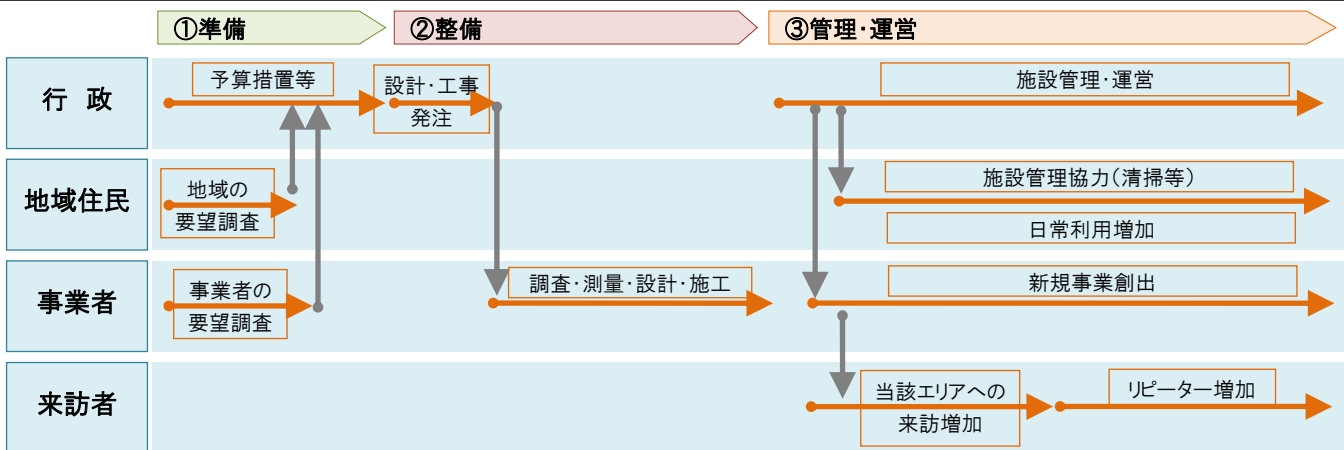
渡船場(簡易型浮き栈橋)



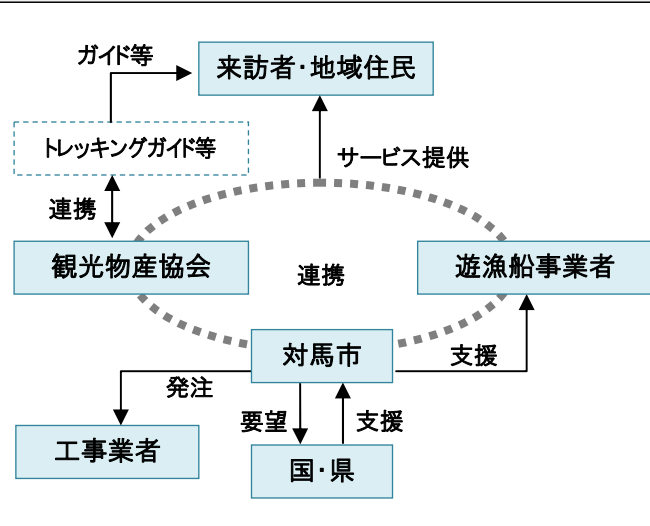
観音神社(通称 子宝神社)



事業計画イメージ



事業間の連携イメージ



概算事業費

歩道整備(基面整正)W=1.5m	1.2km	200万
案内板	2箇所	150万
誘導サイン	4箇所	300万
休憩所	1箇所	300万
距離標	5箇所	200万
渡船場(簡易型浮き栈橋)	1箇所	600万

活用可能な補助事業

・自然環境整備交付金事業

旧志多賀小学校活用事業

事業対象地	旧志多賀小学校	
対象エリア	漁業と食の生業発信エリア	
対象ゾーン	農と漁の6次産業化支援ゾーン	
整備カテゴリ	ハード整備	建築施設(改修)、広場・屋外等
	ソフト整備	6次産業化、創業支援
事業概要	平成15年に閉校後、市保有の施設として現在は文化財課の物品置き場となっている状況ですが、現存する校舎棟を活かし、体験農業、共同キッチン、宿泊機能等を整備することで、地域の農業・林業・漁業振興を目指した「対馬らしい」新たな産業創出を図る拠点を創出します。	
整備優先度	短期 ・ 中期 ・ 長期	
関連する個別事業	新しい中対馬情報発信事業、民泊施設・移住支援住宅等整備事業、Wi-Fi 環境整備事業	
事業主体	対馬市	
連携事業者	食生活改善推進協議会、地域婦人部、対馬いとなみ協議会、商工会、農協、漁協、対馬地域商社、地元農家	
備考		



整備計画図



＜校庭の活用＞
 ・キャンプサイト
 ・駐車場
 ・イベント/BBQ 広場

＜校舎の活用＞
 ・共同キッチン
 ・6次産業体験
 ⇒校舎1Fの改修
 ・宿泊スペース
 ⇒校舎2Fの改修

・地域農家と連携した体験農園の整備
 ⇒受付窓口、農作業道具レンタル

整備の考え方：

校舎のうち、玄関に近い1階部分の教室を地域で利用できる共同キッチンや、農林漁業と連携した6次産業化の拠点として整備します。

また、校舎の2階部分は宿泊利用とすることで、地域と来訪者が6次産業を通じて交流滞在できる中核拠点とします。

整備イメージ



共同キッチン・6次産業体験



林業体験

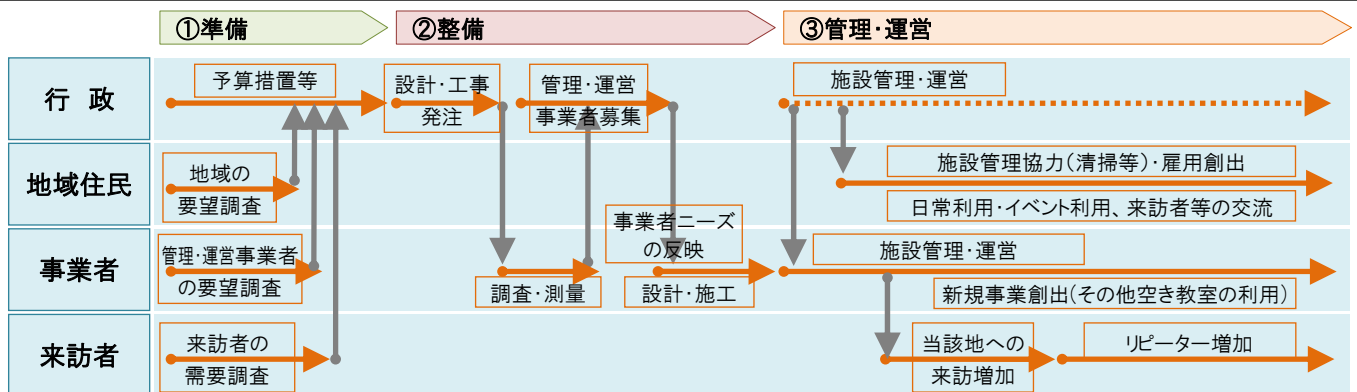


廃校のリノベーション

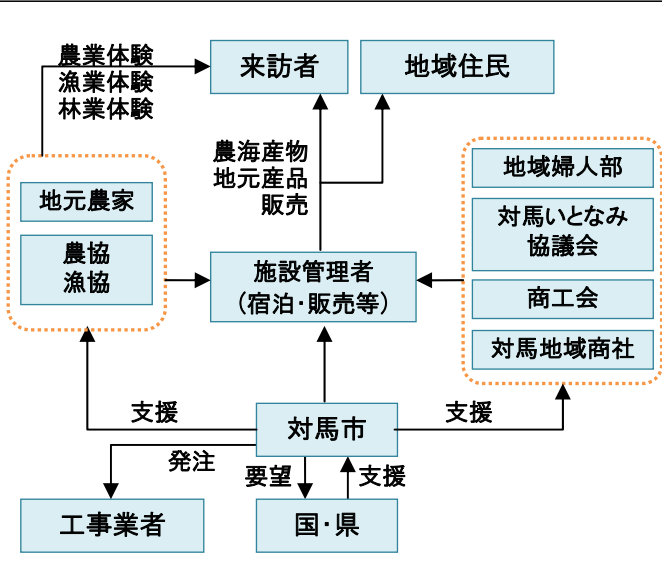


農業体験

事業計画イメージ



事業間の連携イメージ



概算事業費

校舎棟		
フルリノベーション	1,800㎡	2.0億
	1階のみ	1.2億
耐震改修が必要な場合	設計+改修	4,500万
広場整備(広場)	5,800㎡	1,500万

活用可能な補助事業

- ・過疎地域等自立活性化推進交付金(過疎地域遊休施設再整備事業)
- ・農山漁村振興交付金
- ・「小さな拠点」を核とした「ふるさと集落生活圏」形成推進事業

港の飲食店強化事業

事業対象地	鹿見
対象エリア	中対馬の奥座敷エリア
対象ゾーン	食のおもてなしと自然の奇跡体験ゾーン
整備カテゴリ	ハード整備 建築施設(新設)、広場・屋外等
事業概要	鹿見港周辺には上県町の漁協があり、魚の水揚げが豊富であるにも係らず、魚料理を提供できる飲食店がない状況です。そこで、漁協と連携しながら、来訪者等が地元の新鮮な魚(マグロ、アカムツなど)を食べることができる場を整備するとともに、サイクリング等で訪れた人が休憩できる広場の整備を行います。
整備優先度	短期・中期・長期
関連する個別事業	歴史を体感する周遊アクティビティフィールド整備事業、旧久原小中学校活用事業、新しい中対馬情報発信事業、Wi-Fi環境整備事業
事業主体	対馬市
連携事業者	漁業従事者、飲食事業者
備考	他の個別事業による集客効果を見ながら事業収支等を考慮して検討



整備計画図



- ＜耕作放棄地の活用＞
- ・港食堂の整備(飲食店、トイレ、対馬の魅力案内コーナー)
 - ・駐車場の整備(15台)
 - ・サイクルスタンドの設置
 - ・案内板の設置
 - ・芝生広場の整備
 - ・四阿の整備

整備の考え方:

地域住民や来訪者、サイクリスト等の憩いの場所となるよう、鹿見港付近の耕作放棄地を利活用し、港食堂と憩いの広場を整備します。



整備イメージ



親しみやすい食堂



安く新鮮な海鮮料理

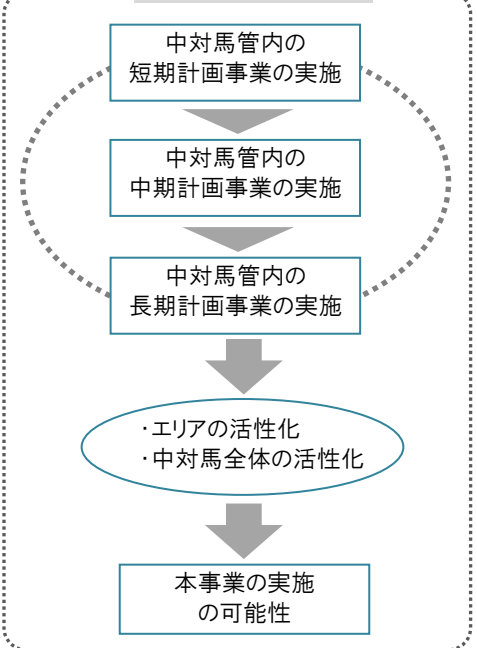


広場でのグラウンドゴルフ

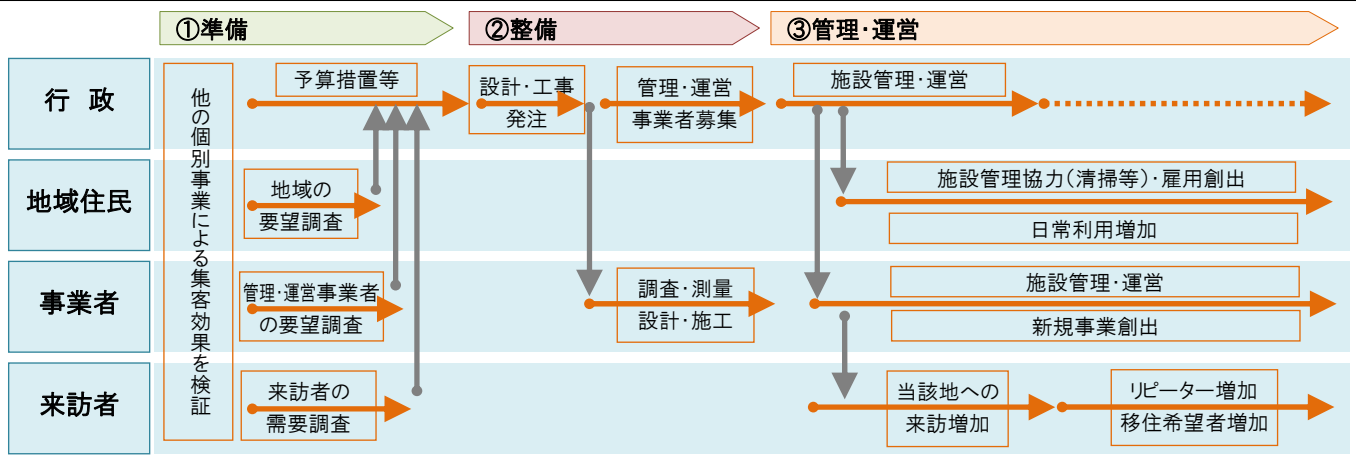


広場での海鮮バーベキュー

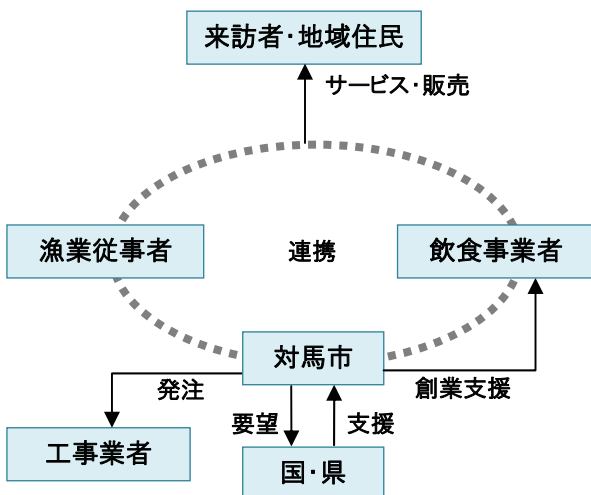
事業実現までのプロセス



事業計画イメージ



事業間の連携イメージ



概算事業費

港食堂(簡易な構造)	200 m ²	2,000 万
憩いの広場(土系舗装)	3,500 m ²	1,000 万
駐車場(As 舗装)	15 台	200 万
四阿	1 箇所	300 万
サイクルスタンド	1 箇所	10 万
案内板	1 箇所	150 万

活用可能な補助事業

・農山漁村振興交付金

廻空き地活用事業

事業対象地	廻の未利用空き地
対象エリア	岬のお散歩エリア
対象ゾーン	岬の魅力案内・休憩スポット
整備カテゴリ	ハード整備 小規模施設(新設)
事業概要	廻の集落周辺は美しい海の眺めを堪能できるにもかかわらず、飲食店もなく、来訪者が訪れても滞在できる場所がない状況となっています。そこで、廻の集落へ行く途中の県道 232 号線沿いの空き地に来訪者やサイクリスト等の休憩スポットを整備するとともに、周辺の歴史案内機能の強化を図ります。
整備優先度	短期 ・ 中期 ・ 長期
関連する個別事業	岬のアクティビティフィールド整備事業 新しい中対馬情報発信事業、民泊施設・移住支援住宅等整備事業、Wi-Fi 環境整備事業
事業主体	対馬市
連携事業者	漁協、飲食事業者、水産関連事業者
備考	他の個別事業による集客効果を見ながら事業収支等を含めて検討



整備計画図



■岬カフェ
他の個別事業による集客効果の状況を踏まえて整備を実施
当面は移動販売車によるPRや事業見通しを立てて運営することを想定

- ＜岬の魅力案内・休憩スポット＞
- ・岬カフェの整備
(飲食店、トイレ、鯨組等の廻の歴史や対馬の魅力案内コーナー)
 - ・駐車場 10 台整備
 - ・休憩所の整備
 - ・自動販売機の設置
 - ・サイクルスタンドの設置
 - ・案内板の設置

整備の考え方:

周遊サイクリングや観光等の休憩スポットとして、岬カフェを整備します。カフェの外にはサイクルスタンドを設置し、中対馬を紹介する案内板を設置します。

また、岬カフェでは飲食店やトイレのほか、廻の鯨組の墓や池田浜の築堤等の歴史や対馬の魅力を紹介するコーナーを設けます。



整備イメージ



岬カフェ



サイクルスタンド

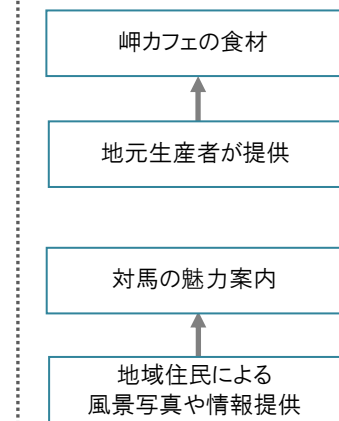


案内板

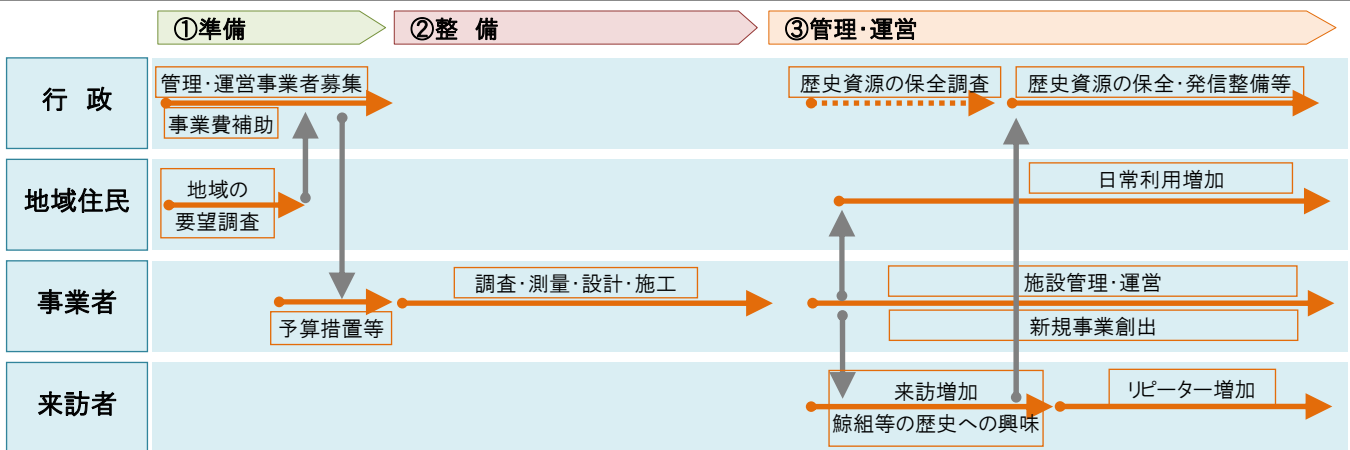


歴史・魅力案内コーナー

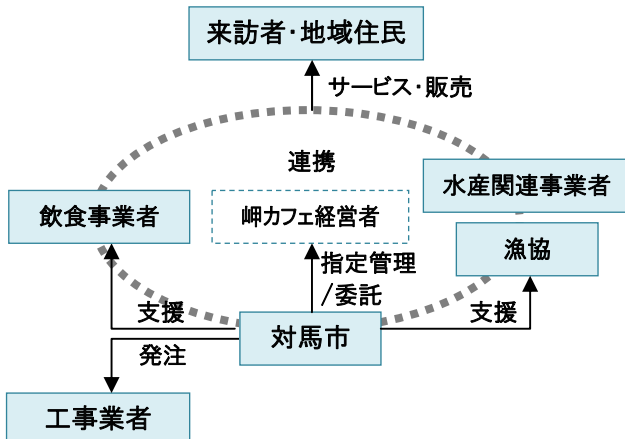
地域との連携イメージ



事業計画イメージ



事業間の連携イメージ



概算事業費

岬カフェ(50㎡)コンテナハウス	1棟	1,200万
※移動販売車(初期)	1台	500万
案内板	1箇所	150万
サイクルスタンド	1箇所	10万
休憩所	1箇所	300万
駐車場	10台	150万

活用可能な補助事業

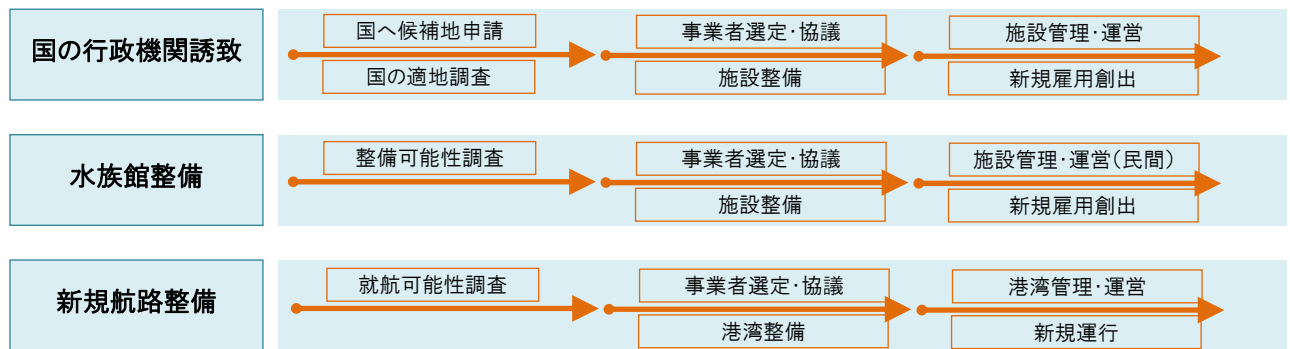
・農山漁村振興交付金

峰港空き地活用事業

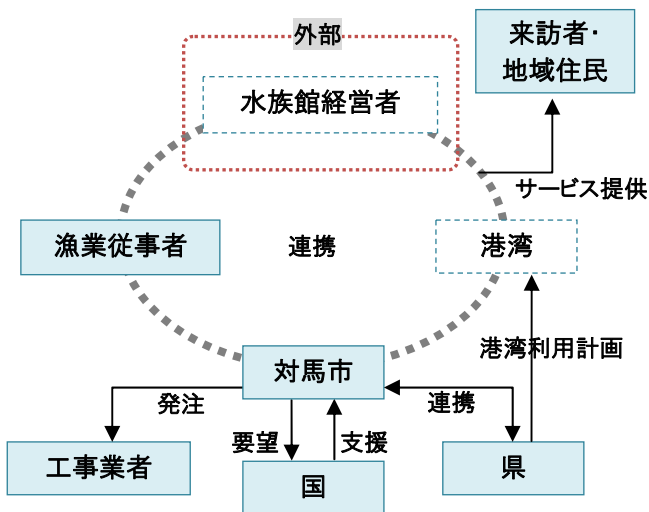
事業対象地	峰港	
対象エリア	漁業と食の生業発信エリア	
対象ゾーン	新産業促進ゾーン	
整備カテゴリ	ハード整備	建築・港湾整備(新設)
	ソフト整備	交通(航路)ネットワーク整備
事業概要	峰港には、整地のみされた未利用の土地がありますが、今後利活用される予定もない状況となっています。そこで、国の行政機関や水族館等を誘致することによって、新たな産業創出を図り、施設関係者の移住や地域住民の雇用創出等による地域活性化を目指した整備を行います。	
整備優先度	短期・中期・長期	
関連する個別事業	佐賀漁港活用・商業交流拠点強化事業	
事業主体	対馬市、長崎県、国、航路事業者	
連携事業者	漁業従事者	
備考		



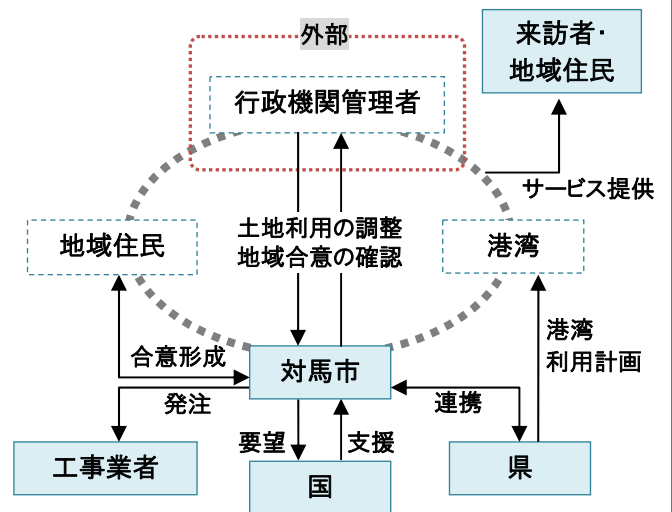
事業計画イメージ



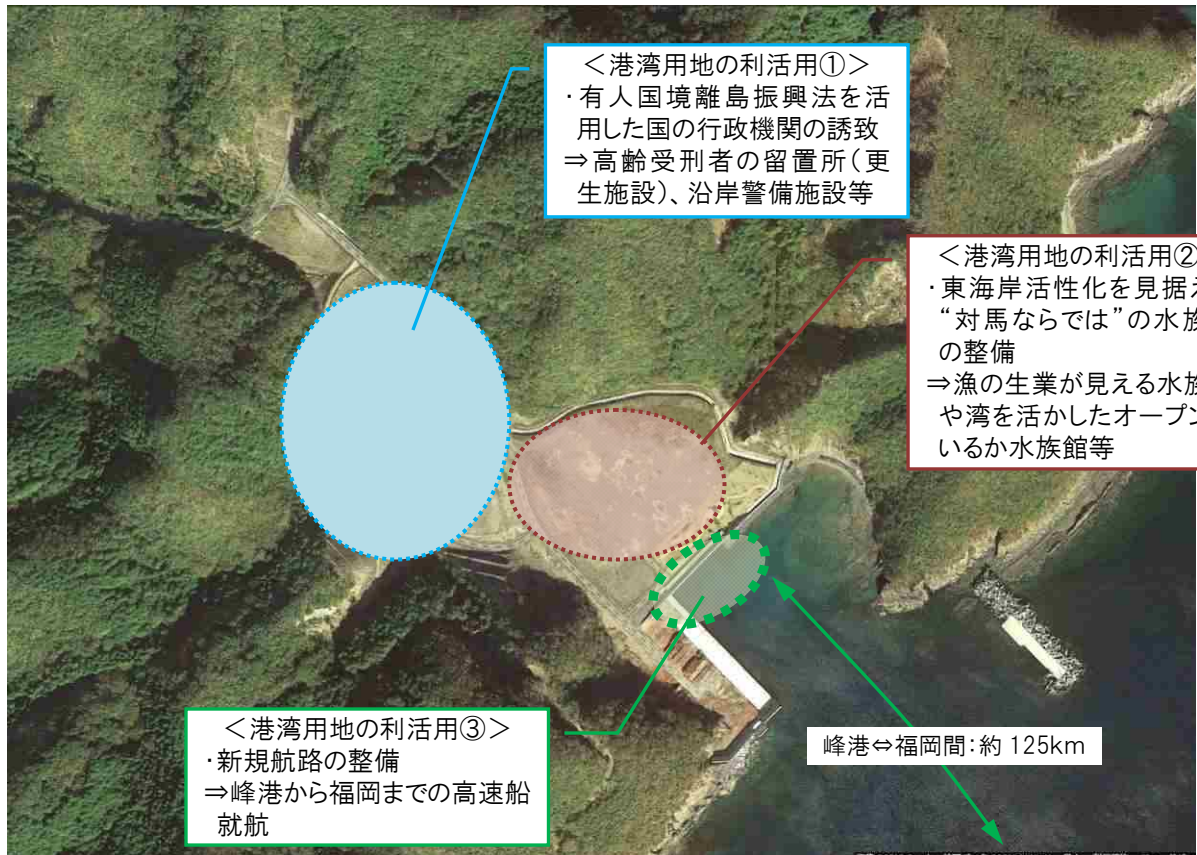
事業間の連携イメージ①



事業間の連携イメージ②



整備イメージ



＜港湾用地の利活用①＞
 ・有人国境離島振興法を活用した国の行政機関の誘致
 ⇒ 高齢受刑者の留置所（更生施設）、沿岸警備施設等

＜港湾用地の利活用②＞
 ・東海岸活性化を見据えた“対馬ならではの”水族館の整備
 ⇒ 漁の生業が見える水族館や湾を活かしたオープン型 いるか水族館等

＜港湾用地の利活用③＞
 ・新規航路の整備
 ⇒ 峰港から福岡までの高速船就航

峰港⇄福岡間:約125km

整備の考え方:

港湾周辺をより積極的に活用するため、国の行政機関や水族館等の整備を行います。また、中対馬には福岡への高速船が就航する港がないため、中対馬への誘客を目的に、新規航路の整備を行います。

参考:水族館の維持費

規模の小さな水族館:900万/月
 規模の大きな水族館:数千万/月
 ⇒ 水循環、温度調整、水質管理(光熱費、ろ過設備)、電気・その他設備、餌代、人件費
 ※小規模の場合、集客力が弱く採算が見込めないケースが多い

参考:規模な小さな水族館の事例

山の水族館(北海道北見市)600㎡、移築、4.5億、淡水魚のみ
 水族館プロデューサー中村元氏の監修
 ⇒水槽展示に注力



規模の小さな水族館の例

四季の水槽



美祢社会復帰促進センター

参考:刑務所・留置所誘致の事例(全国初)

山口県美祢市 社会復帰促進センター
 平成17年よりPFIで契約、H29より収容開始
 当時、全国50箇所余から候補地として手が挙がり、法務省が適地調査・検討⇒選定
 ※選定理由
 整備済みの工業団地の活用で土地の造成が不要、上下水道が整備済み(建設期間の短縮、経費の軽減)、地域全体の同意あり、拡張用地あり、など

- ・全国のPFI刑務所は4箇所(山口県美祢市、島根県浜田市、栃木県さくら市、兵庫県加古川市)
- ・PFI刑務所は構造改革特区を活用

新しい中対馬情報発信事業

事業対象地	中対馬全域	
対象エリア	—	
対象ゾーン	—	
整備カテゴリ	ソフト整備	情報発信
事業概要	中対馬には美しい自然や歴史があるにも係らず、その魅力の情報がうまく発信されていない状況となっています。また、今後各個別事業の実施に伴い、新たな魅力が追加されていくことから、日本のみならず、世界にこれらの魅力の情報発信を積極的に行うことにより、さらなる来訪者等の増加を促進し、中対馬の活性化に繋がります。	
整備優先度	短期・中期・長期	
関連する個別事業	全個別事業	
事業主体	対馬市	
連携事業者	観光物産協会、郵便局	
備考	各個別事業の整備後に、パンフレット・市HP・渡海船での映像PR等を実施	

整備イメージ

①中対馬の魅力発信ホームページの作成

■HP デザイン

参考：しまね観光ナビ、五島市観光協会



■観光 PR 動画

参考：鹿児島県 PR 動画



②中対馬の魅力を紹介する各種マップの作成



■7days Iki Map (参考：壱岐市)

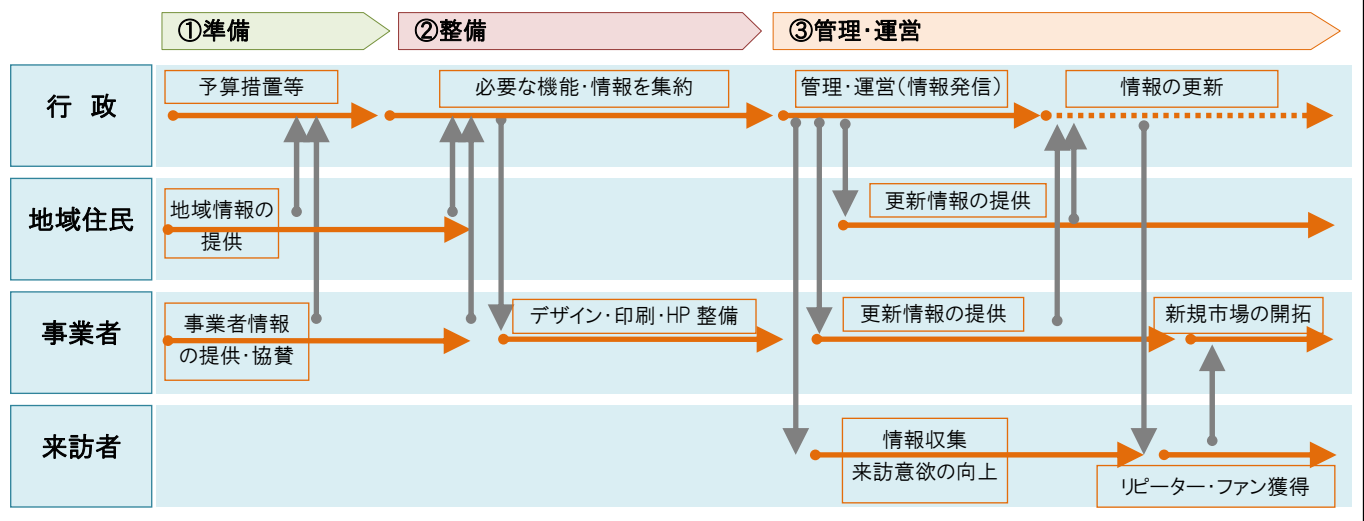
<作成例>

- ・7日間の滞在シミュレーションマップ
- ・リトリートマップ
- ・アクティビティマップ
- ・サイクリング周遊マップ



■KIRISGIMA RETREAT MAP (参考：霧島市)

事業計画イメージ

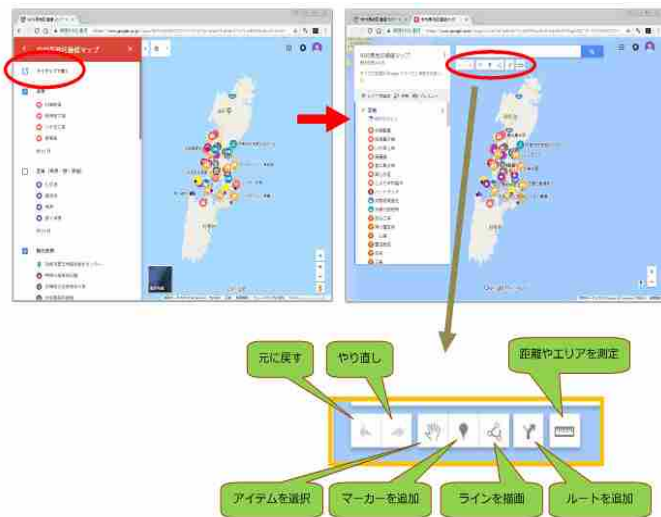
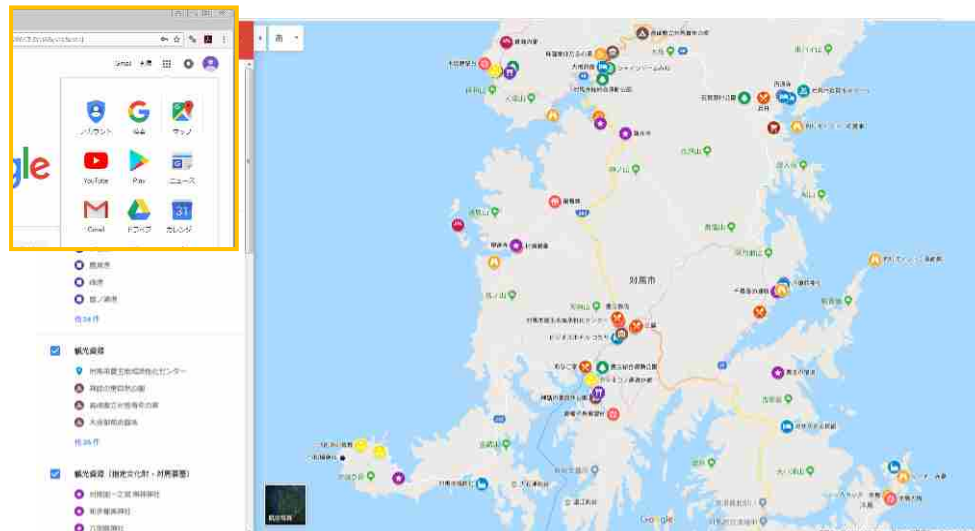


整備イメージ

③中対馬の価値・魅力MAPの更新

■Googleのマイマップ機能を活用した共有ツールを整備

中対馬の関連事業者及び地域住民が主体的に情報を更新・共有できる仕組み

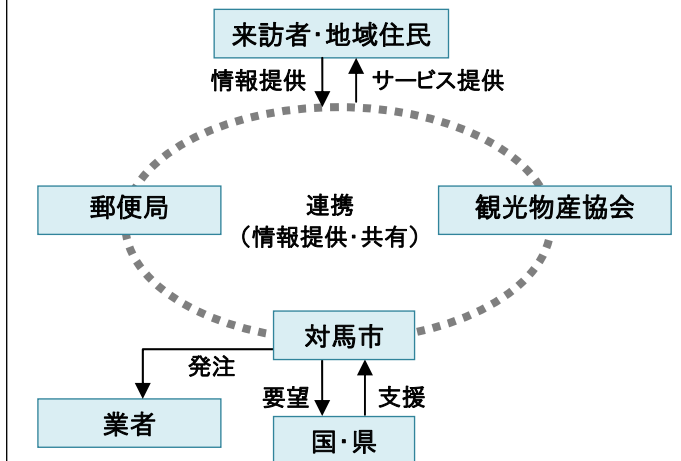


④その他

- ・移住に関する情報の発信
- ・SNS発信
- ・情報誌等への掲載
- ・地域の郵便局との連携

地域に根ざしたサービス提供事業者である郵便局と連携し、各地域の観光や周遊、宿泊等といった来訪者にとって欠かせない各種情報を提供する拠点として位置づけます。

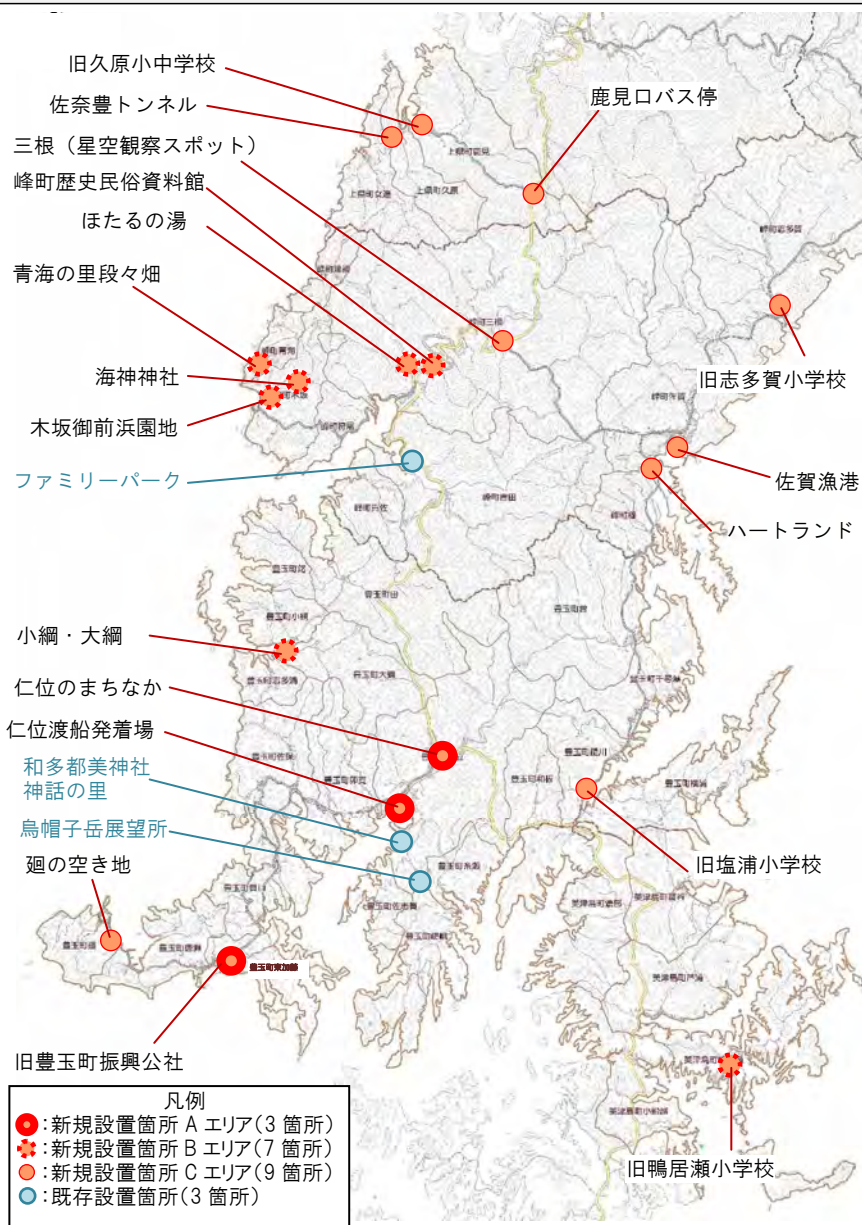
事業間の連携イメージ



Wi-Fi 環境整備事業

事業対象地	中対馬全域
対象エリア	—
対象ゾーン	—
整備カテゴリ	ハード整備 Wi-Fi スポット
事業概要	Wi-Fi 環境を中対馬全域の観光拠点に整備し、来訪者等への「おもてなし」に有効に活用することにより、今後の来訪者等の増加を促進します。また、来訪者に対する利便性の向上だけでなく、地域住民の災害時の安全確保としても活用できるように整備します。
整備優先度	短期・中期・長期
関連する個別事業	全個別事業
事業主体	対馬市
連携事業者	エリアオーナー、通信事業者
備考	各個別事業の整備状況に応じて適宜実施

整備計画図



整備の考え方：
 現在、対馬市の市街地等で利用できるフリーWi-Fi エリアは、厳原と比田勝の中心部のみとなっています。
 中対馬の新たな個別事業と来訪者等の動線等を考慮し、観光地や商業施設に整備するほか、地域住民の防災拠点ともなりうる場所である旧小学校等にフリーWi-Fi エリアを整備します。



対馬市の市街地等で利用できるフリーWi-Fi

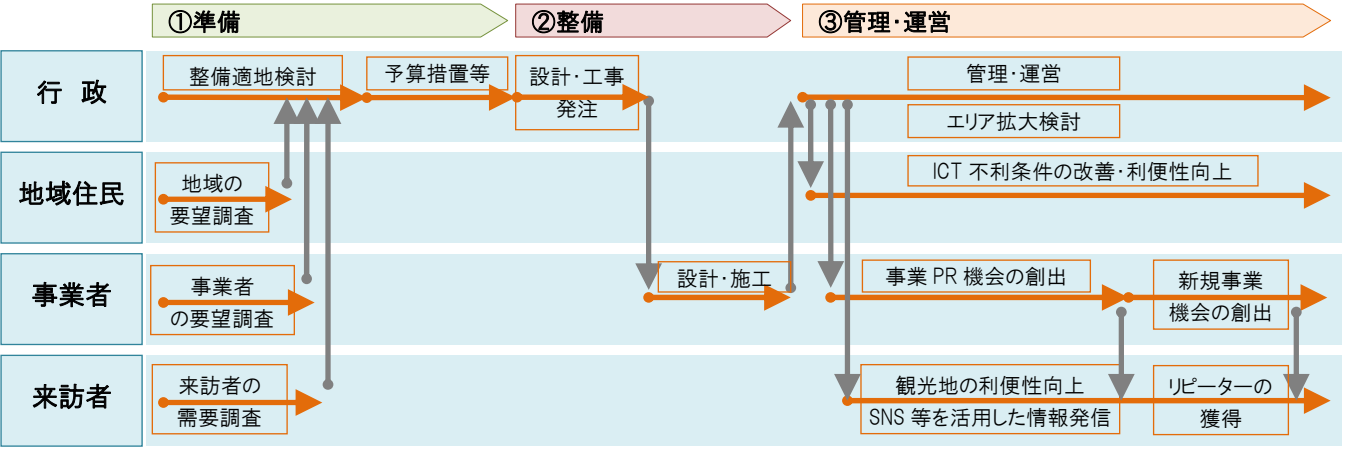
整備イメージ



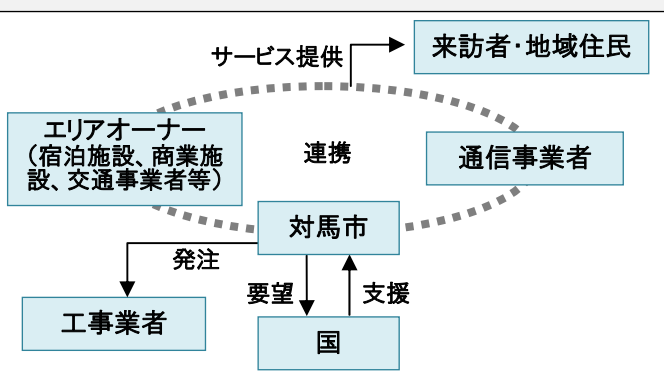
- 利活用の促進イメージ
- ①認証手続き等のセキュリティ対策
 - ②多言語対応
 - ③地域内の一体感の醸成（利用可能場所の周知や周知広報活動など）
 - ④コンテンツの効果的な提供（利用実態の把握、クーポン発行など）
 - ⑤行政サービス向上やまちづくりへの活用

参考：やまなし Free Wi-Fi プロジェクト

事業計画イメージ



事業間の連携イメージ



概算事業費

A エリア(優先度:高)	3 箇所	400 万
B エリア(優先度:中)	7 箇所	1,000 万
C エリア(優先度:低)	9 箇所	1,200 万

※市内整備事例をベースに算出

活用可能な補助事業

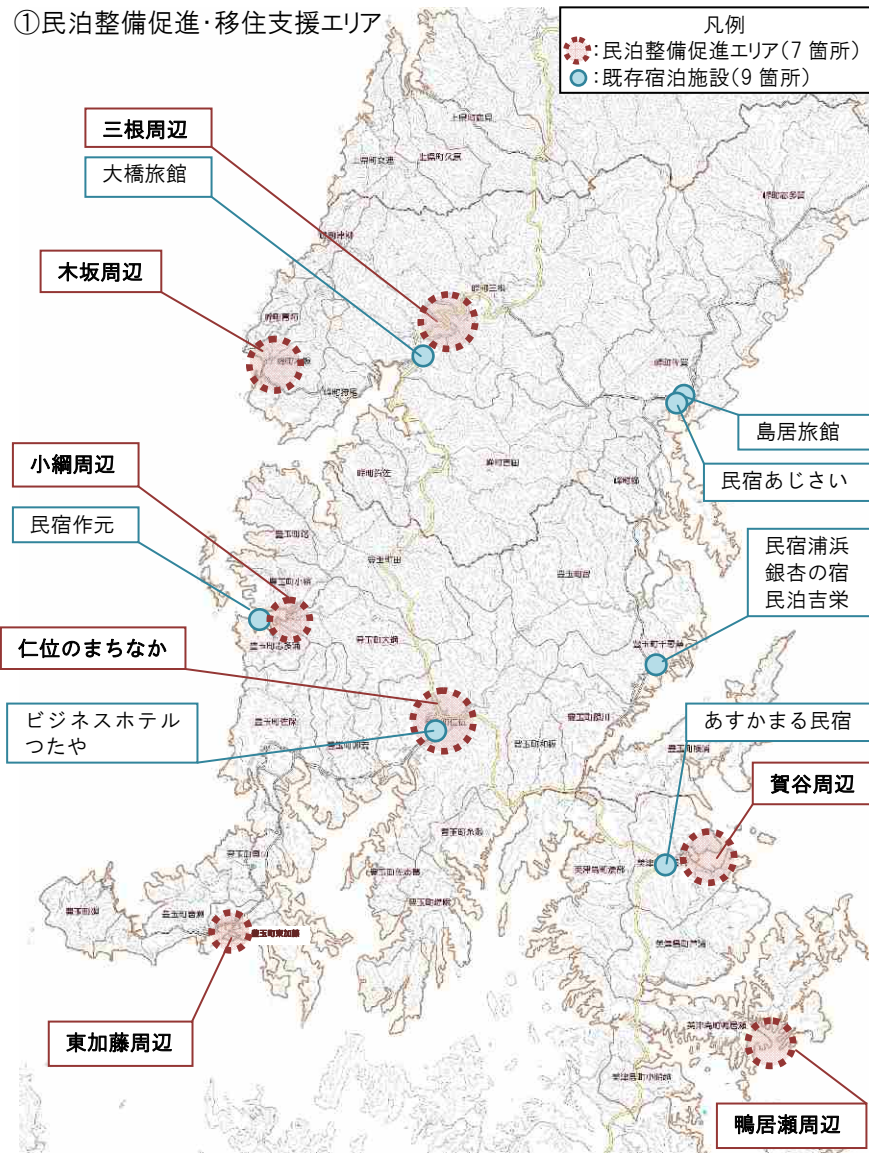
- ・観光・防災 Wi-Fi ステーション整備事業
- ・公衆無線 LAN 環境整備支援事業

民泊施設・移住支援住宅等整備事業

事業対象地	中対馬全域	
対象エリア	—	
対象ゾーン	—	
整備カテゴリ	ハード整備	建築施設(改修)
	ソフト整備	創業支援、移住支援
事業概要	来訪者に様々な体験をしてもらいながら、できるだけ中対馬に長く滞在してもらうためには、受け皿として宿泊施設が必要不可欠です。しかし、現在中対馬には宿泊施設が少なく、より多くの来訪者を受け入れる体制が整っていない状況となっています。そこで、他の個別事業の実施に伴い、拠点となり得る場所の周辺の空き家や空き部屋を活用した民泊施設を整備することで宿泊不利地域の状況を改善し、今後の来訪者等の増加を促進するとともに、職業体験の実施など新たな雇用創出の機会をつくり、中対馬内での交流・対流・循環をうみだす環境を目指します。	
整備優先度	短期・中期・長期	
関連する個別事業	全個別事業	
事業主体	対馬市	
連携事業者	観光物産協会、グリーン・ブルーツーリズム協会、空き家所有者、民泊創業希望者、地域内の各種事業者	
備考	各個別事業の整備状況に応じて適宜実施	

整備計画図

①民泊整備促進・移住支援エリア

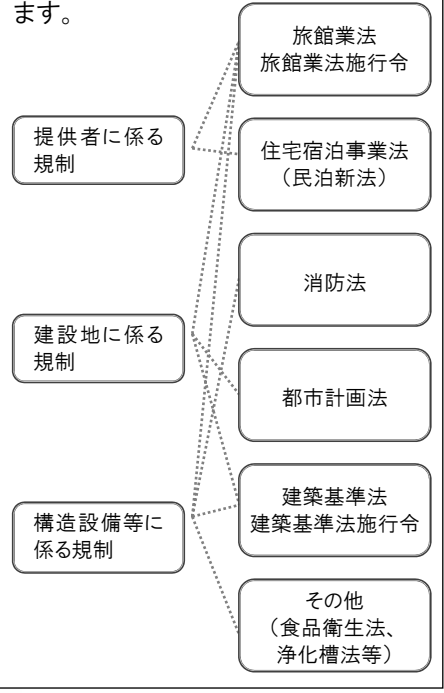


整備の考え方:

観光や各種事業、周遊等の拠点となる地域を対象として、エリアごとにテーマを設定した「民泊整備促進・移住支援エリア」を設定します。

各エリアの民泊事業希望者等と協議しながら、空き家や空き部屋の有効活用を図る整備を行います。

なお、民泊整備には住宅と異なる様々な法規制があるため、適切に事業を実施できるよう各種支援を実施します。



整備イメージ

■民泊の整備イメージ



空き家の改修



民泊での料理体験



新鮮食材のおもてなし

■移住支援(移住体験住宅の整備)イメージ



暮らし体験住宅の整備と利用者募集



移住ガイドブック・企業ガイドブックの作成



■職業体験・担い手育成イメージ



趣味・職業まるごと体験移住ツアー

■エリアごとのテーマ設定の例



■歴史ある石積塙の家を体験する民泊(木坂)



■漁村の生業を体験する民泊(東加藤)

※上記イメージは、特定の住宅を対象とするものではありません

インストラクター育成イメージ

アクティビティやリゾートに関する他の個別事業で重要な位置づけとなるインストラクターの育成例

対馬市民または今後中対馬に移住予定の人を対象にインストラクター希望者募集

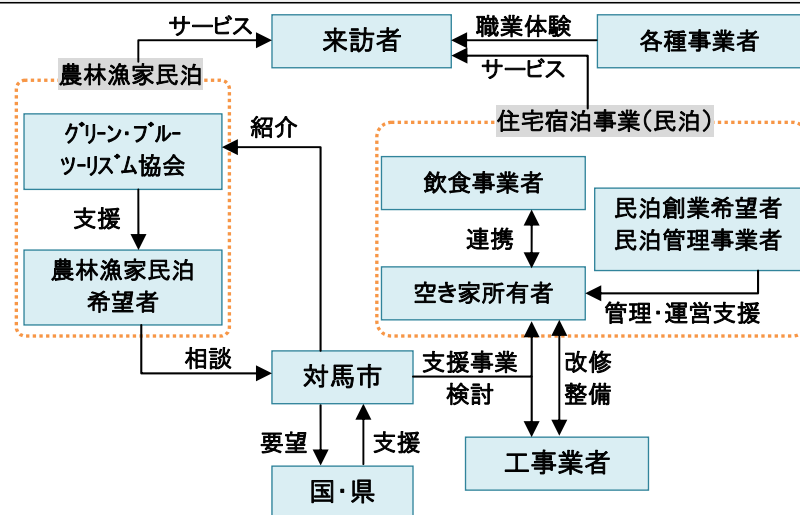
対馬市が希望者を審査(中対馬での活動を条件)

審査通過者に資格取得費用援助(島外(福岡等)でのスクール受講費用等)

帰島後、対馬市で一時雇用

契約期間終了後独立開業

事業間の連携イメージ



概算事業費

クロス張替え	6畳	約4万
フローリング張替え	6畳	約10万
キッチン設備入替え		150~300万
トイレ設備入替え		50~80万
ユニットバス入替え		100~150万
その他		改修箇所に拠る

※家屋の状態によって改修規模が異なります。

活用可能な補助事業

- ・特定有人国境離島地域社会維持推進交付金
- ・離島活性化交付金
- ・農山漁村振興交付金
- ・地域課題解決型人財誘致・発掘補助金